

富士河口湖町立 教育センターだより

No.11

令和2年9月11日

文責 渡辺 富美夫



大切な 小さな一歩

チーフSC学習会実施

町立教育センターでは、県総合教育センター相談指導部の保坂三雄チーフスクールカウンセラーを講師に、「長期不登校児童生徒へのかかわり及び教育支援センターの役割」をテーマに、学習会を行いました。なぜ、不登校となるのか具体的事例を示しながらのお話で、本センターの児童生徒の対応についてもご指導いただきました。保坂チーフSCの経験豊かなお話に多くのことを学ぶことができました。



今年度よりチーフスクールカウンセラーが総合教育センターに配置され、学校配置スクールカウンセラーへの指導助言や、市町村教育支援センターへの要請訪問を行い、指導助言体制の強化を図っていくことになりました。

掘抜学習事前打ち合わせ会



「ほりぬきがひらいた未来」の学習は、「昔から今へと続くまづくり」の学習を町教育センターの研究組織である富士山学習研究会が本町独自に開発した地域教材です。この学習には、富士山科学研究所が深く関わってくださっています。「河口湖は堰止湖のため増水災害を起こし、富士吉田市新倉地域は水不足であること」を富士山と関連付けて行



っています。富士山科学研究所との連携授業を町内全ての小学校で行うようになったことから合同で事前打ち合わせ会を行い、教材の背景、素材、授業の進め方等を説明していただきました。プログラム化されたことにより、本学習の未経験の先生でも充実した授業が実施できます。

修学旅行 できる限りの対策を講じて

各学校では、コロナ禍での授業、学校行事等実施において、日常的に手指消毒や健康チェックの徹底とともに3密にならない工夫などの対策を講じてきています。修学旅行の実施においては、現地での状況把握に努めるとともに交通手段の変更、宿泊施設への対応等について町校長会や各学校で話し合いを重ね、できる限りの対策を講じて取り組んでいます。その中で、勝山中学校が9月1～3日に無事実施することができました。



修学旅行の様子について（勝山中学校）

今年の修学旅行は、新型コロナ対応の特別な修学旅行となりました。学校としても状況を見定めながら、ギリギリの判断となりましたが、無事に2泊3日の修学旅行に行ってくることができました。2週間前から家族を含めた健康チェックをはじめ、感染防止の観点から、バス2台を手配し、密にならないよう間隔をあけて乗車。宿舎での換気、消毒、配膳、布団の上げ下ろし、入浴、バスタオルの交換、水分補給など、ガイドラインに沿って、宿舎の方々には細かいところまで配慮していただきました。また日程も精査する中で、密になる場面を極力減らすことや、昼食時も感染防止策のとられた店を選び、土産物の購入店も限定するなど、考えられる限りの対策を行いました。私たちの行った9月1～3日は天気にも恵まれ、法隆寺や清水寺は貸切状態で、ほぼ修学旅行生の姿は見られず、いつもの様子とは大きく違っていました。生徒も我慢しなければならない場面もたくさんあったと思いますが、その中でも楽しさを見つけ、成果の見られる修学旅行となりました。全員が「行けてよかった」と言っていることから、行かせていただいたことに本当に感謝しています。